

潤いの森にくらすヤモリ



潤いの森にくらすヤモリは、春になると冬眠から目を覚まし、夜の森で少しずつ活動を始めます。夏は虫が多く、元気に動き回って子育ても行います。

秋になるとだんだん動きが少なくなり、落ち葉の下や木の皮のすき間など、冬を越す場所を探します。

寒い冬のあいだは、倒木や石のすき間で静かに休みますが、**ヤモリはときどき体の向きを変える必要があるため、完全には眠らず半冬眠の状態**で、また春が来るのを待っています。



半冬眠中

千葉県では
一般保護生物(D)
に指定



ヤモリに近い爬虫類

潤いの森で見られる爬虫類には、ニホンカナヘビとニホントカゲがいます。ヤモリは地上の上の方で生活するのにに対し、ニホンカナヘビやニホントカゲは地表で生活しています。また、ヤモリは夜行性ですが、ニホントカゲとニホンカナヘビは日中に活動します。



ニホンカナヘビ



ヤモリ



ニホントカゲ

学名：Gekko japonicus

分類：爬虫類ヤモリ科

体長：10～15cm

分布：本州、四国、九州



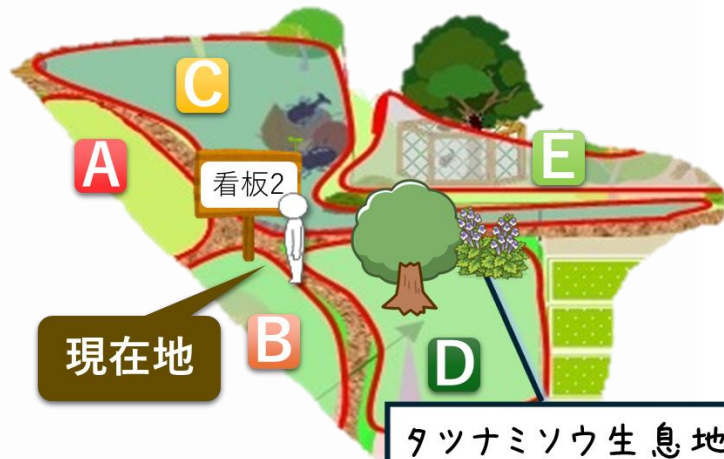
コバノタツナミソウ



潤いの森で見られるタツナミソウは、変種のコバノタツナミソウで、林のふちや雑木林の地面で見られます。

春から初夏にかけて、紫色の花を穂のように立ち上げて咲かせます。**花の形が波しぶきのように見えることから、**

「立浪(たつなみ)」の名がつけました。葉は地面に広がって生え、やわらかな日ざしとほどよい湿り気のある場所を好みます。香りはしませんが、タツナミソウはシソやミントと同じ仲間です。花の形も、よく見るとよく似ています。



学名：Scutellaria indica

var. parvifolia

分類：シソ科タツナミソウ属

多年草

高さ：5-20cm

分布：日本、台湾、中国



花は、虫のための「通り道」

タツナミソウの花は、虫が奥へ入りやすいトンネルのような形をしています。虫は蜜を求めて中に入る途中で背中に花粉をつけ、別の花へ運ぶことで受粉を助けています。



入口



潤いの森に暮らすシリアゲムシ

シリアゲムシは、春から初夏にかけて雑木林や林のふちで見られる昆虫です。細長い体を持ち、休んでいるときや歩くときに、おしりの先をくいと持ち上げる姿が名前の由来です。一見するとサソリのように見

えますが、刺したり毒をもったりすることはありません。日本には、約40種類のシリアゲムシの仲間が知られています。潤いの森では、そのうちヤマトシリアゲとプライアシリアゲの2種類を見ることができます。どちらも日本にのみ分布する固有種です。特にヤマトシリアゲは、生息環境の変化などから、千葉県ではレッドデータブックに指定されている昆虫で、身近な自然を守る大切さを教えてくれる存在です。



学名：Panorpa japonica
分類：シリアゲムシ目
シリアゲムシ科
分布：沖縄除く日本全土
体長：約15～22mm

千葉県
一般保護生物(D)



学名：Panorpa pryeri
分類：シリアゲムシ目
シリアゲムシ科
分布：本州、四国、九州
体長：約13～18mm

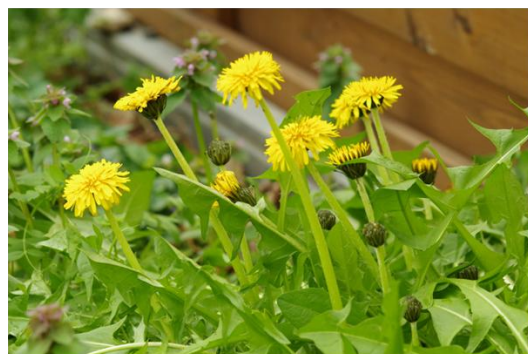


ヤマトシリアゲ

カントウタンポポとセイヨウタンポポ



春になると、森の周辺や道ばたで黄色い花を咲かせるタンポポ。日本には、もともと自生してきたカントウタンポポと、海外から持ち込まれたセイヨウタンポポがあります。外見は非常によく似ていますが、生育環境や繁殖のしかたには違いがあります。



分類：キク科タンポポ属
多年草
高さ：15～25cm



カントウタンポポ

春に花を咲かせ、夏には地上部が衰えますが地下の根で越冬し、同じ株が条件のよい年には何度も花を咲かせます。



分布：自然が残る草地・林縁等
開花期：3～5月
繁殖：ほかの個体の花粉が必要

セイヨウタンポポ

春から長い期間にわたって花を咲かせ、地下の根で越冬しながら、同じ株が受粉なしでも種をつくって急速に増えていきます。



分布：道ばた・公園・市街地等
開花期：3～12月
繁殖：受粉なしでも種ができる

ガクが反り返っているor いない